

持続可能な開発目標(SDGs)と科学技術イノベーション

プラットフォームとしての
日本学術会議

井野瀬久美恵

甲南大学文学部教授 / 日本学術会議副会長

2017年9月5日 @国連大学

日本学会会議での議論の状況

- ▶ これまで、様々な課題別・分野別委員会がSDGsの目標達成に資すると考えられるような提言や報告を公表してきた。
- ▶ 2017年1月「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」（テーマ：持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた超学際研究とマルチステークホルダー協働の推進）を開催
- ▶ 2017年4月 科学と社会委員会に「持続可能な開発目標（SDGs）対応分科会」を設置し、現在学術とSDGsをめぐる双方向的課題を審議中
- ▶ 2017年10月以降（第24期）の継続審議のために、具体的な申し送り事項を検討中

学会がSDGs議論の「プラットフォーム」となるために——次期への申し送り事項(案)

1. 「科学と社会委員会」のもとにSDGsへの対応を検討する分科会を設置し、SDGsとの関係の認識が薄い分野をも巻き込み、各部、並びに若手アカデミーを含めた議論が必要である。
2. 「SDGsへの対応」には、「学会がSDGsにどのように関わるか」とともに、「学会自体がSDGs対応によってどのように『体質改善』するのか」も含まれる。そのためには、学会の特徴である俯瞰的な視点が重要となる。
3. SDGsに照らして学界をレビューし、学界もまたSDGsをレビューする——この双方向でSDGsに向き合う認識が求められる。
4. 学会以外の国内外の組織の動き・議論のあり方について情報を集め、フィードバックするなどして、学会での議論の相対化に留意する。